

例題 右の表はとある携帯の料金プランです。

1か月に x 分話したときの料金を y 円とする。

① 3つのプランの $x + y$ の関係を式にすると？

	月額基本使用料	1分ごとの通話料
A	3000	40
B	5000	20
C	9000	0

- ①
- Ⓐ $y = 40x + 3000$
 - Ⓑ $y = 20x + 5000$
 - Ⓒ $y = 9000$

② 1か月に180分話したとき、1か月の料金を安い順番にすると？



1分は x なので、各式の x に180を代入する。

- ②
- Ⓐ $y = 40 \times 180 + 3000 = \underline{10,200}$ 円
 - Ⓑ $y = 20 \times 180 + 5000 = \underline{8,600}$ 円
 - Ⓒ $y = \underline{9,000}$ 円

安い順番... Ⓑ → Ⓒ → Ⓐ

③ Bプランの料金がAプランより安くなるのは、1か月に何分多く話したとき？

連立方程式で交点を求めるパターン

$$\begin{array}{l}
 \text{Ⓐ } y = 40x + 3000 \\
 \text{Ⓑ } y = 20x + 5000
 \end{array}
 \rightarrow \text{並べかえ}
 \begin{array}{r}
 -40x + y = 3000 \\
 - \quad | \quad -20x + y = 5000 \\
 \hline
 -20x = -2000 \\
 \hline
 x = \underline{100} \text{ (分)}
 \end{array}$$

ちなみに y を求めると、
 $y = 40 \times 100 + 3000 = 7000$ (円)
 交点が7000円のとこになる

答え、100分より多く話したとき